

# 奈良市公民館運営審議会会議録

平成 25 年 7 月 4 日会議

## 平成25年度第1回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	平成25年7月4日(木) 午前10時00分から午前11時30分まで	
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室	
議 題	1 平成24年度公民館事業実施状況及び利用状況について 2 平成25年度公民館事業計画について 3 平成24年度公民館大会についての報告 4 平成25年度公民館大会について 5 奈良市公民館運営審議会運営要領の改正について 6 その他	
出席者	委員	青木委員、生嶋委員、大場委員、粕井委員、権藤委員、島岡委員、 田中委員、茶谷委員、宮池委員、宮辺委員、八木委員、山本委員、 吉田委員 <b>【計13人出席】</b>
	事務局	教育長、教育総務部長、教育総務部次長、生涯学習課長、 生涯学習課長補佐、生涯学習財団常務理事
開催形態	公開	
決定事項	—	
担当課	教育総務部 生涯学習課	
<b>議事の内容</b>		
<p>○機構改革等の説明          生涯学習課長と生涯学習財団常務理事を紹介し、各々から挨拶。          会議への出欠状況を確認し、奈良市公民館条例施行規則第4条第2項に基づき、会議が成立することを報告。</p> <p>○教育長の挨拶          中室教育長から挨拶。</p> <p>○議長の指名及び会議録の署名について          奈良市公民館条例施行規則第3条第2項の規定により会長が議長に指名。          議事に入る前に、議長から会議の公開と傍聴希望者の確認を行った後、今回の署名委員の指名及び確認。(島岡委員と吉田委員)</p>		

## ○平成24年度公民館事業実施状況及び利用状況について【案件1】

財団常務理事 昨年4月より、生涯学習財団は、公益財団法人として新たに再出発し、また、本年度より市から新たに向こう5年間の指定管理の認定を受けました。今後ますます地域の皆様、市民の皆様の生涯学習、社会教育の場として充実が図れますよう、職員一同頑張っておりますので、皆様どうぞよろしく願いいたします。

それでは、資料1に従って説明させていただきます。平成24年度の公民館利用者総数は645千人で、奈良市の人口一人当たりの利用回数は年1.8回でした。

次に平成24年度は、公民館事業として、418件、開催回数としては、1,953回の事業を実施し、定員11,009人に対して、延べ60,502名の方に受講いただきました。7つの分類別に、幅広く主催事業を実施し、23年度と比較しますと、回数では55回の増加。受講者は、延べ4,689名の増でした。

大型館については、施設の特徴を活かした事業や立地を活かした事業展開を図りました。具体的には、生涯学習センターは、奈良教育大学との連携事業の実施や、編纂後1,300年を迎える古事記を取り上げた古典文学講座を実施しました。又、今後の公民館事業をサポートいただく人材育成を目指した託児ボランティア養成講座や生涯学習ボランティア養成講座を開催したり、パソコン室を活用した各種パソコン講座を実施すると共に、パソコン講座・講師養成講座を実施し、講師として活動できる人材育成にも努めました。中部公民館は、300人を収容できるホールを擁する利点や立地の利を活かし、専門家による歴史講座の奈良学セミナーを開催しました。西部公民館では、学園前ホールと共催し、ホールを満席にした音楽コンサートのせいぶプリマヴェーラコンサートの実施や、体育室を利用したダンス講座、ストレッチ教室で公民館の新たな利用者間口を広げる取り組みを始めました。

地区公民館では、地域の特色、素材、課題に対応し、工夫をこらした事業展開に取り組みました。特色のある事業として、生涯学習財団では、平成22年より現代課題の中から、高齢者・男女・青少年・家庭教育・共生の5つを重点分野と定めており、各公民館は、地域の課題や現代的な課題解決の事業に積極的に取り組む共通課題と捉えて、実施を必須とし、奈良市全域で展開いたしました。その中でも、分野ごとに特徴的な取り組みとして11講座を別紙に記しています。

また、各公民館は避難所として指定されており、先の東日本大震災をきっかけにして、防災拠点、地域コミュニティの拠点としての期待、役割も大きくなっており、地域と一体となった防災講座も実施しております。

続いて、先ほどご説明した公民館事業の他に、別途、市の委託を受けて実施している生涯学習支援活動事業についてご報告します。1つめは奈良ひとまち大学です。

この事業は、奈良に暮らす20代～30代の若い人が、世界に誇る奈良の魅力を再発見する学びの場を創るという目的の下、実施しています。奈良市を丸ごとキャンパスに見立て、奈良で魅力的な人に出会い、奈良の町の文化・自然・モノ

に出会い学ぶという考えで、今までにない新しい学びの場を提供しています。

平成22年9月に開校して、約3年が経過し、今まで112回の授業を実施してきました。日頃、公民館になじみの薄い20～30代をターゲットにしており、公民館の授業とは一味変わった、市内の色々な場所を活用し、公民館ではできない事業を実施しています。奈良ひとまち大学の受講者は、ターゲットとする20～30代の構成比が23年度の41%から24年度46%とアップし、回を重ねるごとに知名度と評価も上がってきており、開校以来の延べの受講者数は本年6月末時点で、2,841人となっています。今年2月にはNHKの取材を受け、3月に関西圏でも放映されるなど大きく注目を集めた年度でありました。また、100人を超える講師との出会い、100回を超える講座参加者との出会いそのものが、財団、並びに職員にとっての大きな財産となり、今後活かせるものと考えています。

次に、奈良市子育てスポット事業についての資料をご覧ください。この事業は、子ども育成課から委託を受け、9つの公民館で、毎月2回実施しました。概ね0～3歳児とその保護者を対象に、子育て中の親同士の交流、悩みの共有、専門的なアドバイス等、子育てから離れ自由な時間を持ってもらおうという事業ですが、24年度は、5,351人の参加がありました。受講者アンケートを拝見すると、その実施主旨である、同じような年齢の子供を持つ親同士が情報交換出来て良かったや、子育てストレスの緩和など、すごく楽しかったという感想をいただいております。満足度も高い結果が出ています。財団としても、これをきっかけにして保護者の公民館利用に繋げたり、子ども自身が就園するまでのつなぎ対策を講じることで、公民館利用者を広げたいと考えております。

次に、生涯学習フェスタ2013についてご報告いたします。公民館の1年間の集大成として、1年間公民館で学んだことの発表の場として毎年、実施しています。成果の発表の場と同時に、公民館の活動を広く市民の皆さんに知っていただき、学ぶ仲間同士の交流を図ることを目的に実施し、2013年については、学習している自分自身が学びの主役であると共に、誰かに伝える・繋げるということをキーワードに、あなたが学びの架け橋に～笑顔がつながる公民館をテーマにして、様々な発表や体験コーナーを設置し、2日間に亘り広く展開しました。2日間で延べ2,252人の方に参加いただき、学ぶ楽しさを体験いただき、これまで公民館を利用したことのない方へのPRの機会という目的も果たすことが出来ました。とりわけ、オープニング行事に奈良ひとまち大学の第100回目特別授業を持ってくことで、講師のみうらじゅんさんの効果もあり、公民館に縁のなかった方が多数参加いただいたことも反響が大きかった一因と思います。加えて、今回のフェスタを皮切りに、各家庭で不要になった書籍を公民館に集め、売却代金を寄付することで必要な図書を図書館に揃えようという陸前高田市・図書館ゆめプロジェクトをスタートし、向こう1年間の公民館活動を、来年のフェスタに向けてつなぐ形を整えました。

最後に、現在、公民館活動の認知と理解を深める為に、広報強化を図っております。今回、公民館事業報告の機会をいただきましたが、年間で延べ65万人使っている公民館利用者でさえ、主催事業の内容についての周知度

は、まだまだ低いと考えております。主催事業の情報は、主にしみんだよりを通じて広報しておりますが、どうしても情報掲載量が限られておりますので、豊かな情報を迅速に発信する為、平成17年に開設した財団HPの内容拡充に力を入れております。その結果、財団への関心・注目度を著わす指標の一つであるHP閲覧数が毎月20万件を超えてきた点からも、継続した情報発信を続けてまいりたいと考えております。以上です。

委員 最初に、奈良市の人口一人当たりの利用回数は年1.8回という話でしたが、直近の3年間ほどの変化はどうなっているのでしょうか。

財団常務理事 平成20年度から平成24年度の利用者数の経年変化を見ますと、640千人から650千人となっておりますので、利用回数は年1.8回程度でほぼ横ばいとなっているのが実態であります。主催講座の参加者数では増加傾向にあるものの、自主グループの利用者数が漸減傾向に推移をしています。この漸減傾向につきましては、課題と捉えており、主催事業の参加から、全体の活用者を広げていくよう取り組んでおるところです。

#### ○平成25年度公民館事業計画について【案件2】

財団常務理事 生涯学習財団は、25年度も学習機会の場の提供、さらには地域の皆さんの自主学習の支援、また、地域の活動の拠点として、地域の課題に対応し、各団体との連携を図って事業展開をしていきます。

25年度の事業予定件数は369件、回数1,464回、募集定員は7,770人となっております。加えて自由入場の講座もありますので、更に多くの皆さんに参加いただけたと考えております。

講座内容については、継続してゆく講座も、新たに始める講座もあります。今までの実施状況を踏まえて、それぞれ内容に工夫を加え、新しい視点からの地域課題解決に沿った事業を、今年度も各公民館で積極的に展開して参りたいと考えております。

特徴的な事例をご紹介しますと、一つは防災講座です。今までの防災講座は、地域で一緒に行います。皆さん、参加してください。という形が多かったのですが、若い世代の親子に絞り、災害に遭難した時に避難所で小さい子どもをどう守ってゆくのかをテーマに、おむつの代用品をビニール袋で代用するなどの方法を学ぶ講座として、親子で揃えば憂いなしという親子一緒に学ぶ防災講座を企画しております。二つ目に、東部地域の5公民館では、まるまる一日デイキャンプと題し、東部エリアの子どもたちを一堂に集めて大人数の中で体験活動する事業を、昨年より5館連携で始めるなど、新たなチャレンジを始めています。

そして、25年度の自主グループの登録については、1,716団体と、各分野で自ら学ぼうというグループが昨年と同数登録いただきました。継続しての活発な活動を期待しております。

次に、そのほかとして、奈良ひとまち大学は、今年度も奈良の魅力的な人とまちを紹介しながら、多くの方に奈良の魅力を発信し続けたいと考えておりますし、9月には3年目を迎えますので、3周年の特別授業も計画しております。

また、平成25年度の子育てスポット事業は、昨年実施した9館に、今年は平城西公民館を加えて10館で実施いたします。各館で毎月2回、計24回の事業を実施予定です。

さらに、生涯学習フェスタ2014は、自主グループの活動発表の場に留まらず、公民館を知ってもらうきっかけ創りや、いろいろな人々に学びの楽しさや喜びをもっともっと知ってもらいたいとの思いを込めて、公民館で見つけよう！学ぶ喜びをサブタイトルにして実施したいと考えております。以上でございます。

### ○平成24年度公民館大会についての報告【案件3】

- ・第34回全国公民館研究集会・第60回近畿公民館大会参加報告  
平成24年10月11日(木)～12日(金)

委員 全国公民館研究集会が滋賀県で開催ということで、近畿公民館大会と兼ねて開催されました。

昨今、安心安全の拠点としての公民館のあり方に、多くの方々の関心が寄せられる中、岩手県大船渡市赤崎地区の吉田前公民館長より、東日本大震災の教訓と題した基調講演と、和歌山県勝浦市と新宮市の報告がありましたが、岩手県大船渡市に絞って報告をいたします。

この地域では、昭和35年にもチリ地震の影響で被災した経験から、防災意識が非常に高く、かつ魅力的な防災訓練を行い、住民参加100%の防災訓練が実施されていました。それでも、今回、津波の被災者があつたようです。

まず4日間の孤立した避難生活においても、本当に理路整然と統率の取れたものであり、赤崎地区の吉田公民館長の陣頭指揮は、やがて大船渡市全域にいきわたり、その後も続いていったそうです。現在は退任されており、自主防災訓練がいかに大切であるかということの講演で、全国を奔走されているそうです。

また、この特別企画には、公民館関係者以外にも、滋賀県内の防災危機管理局の方々も共に参加して勉強されており、これは素晴らしいことだと感じました。

次に分科会について報告させていただきます。私は、第2分科会「家庭・学校・地域のつながりと公民館」というに分科会に参加しました。

奈良市から南部公民館の大谷施設長がパネリストとして発表され、南部公民館では、「地域デビューは公民館から」という主旨で、放課後子ども教室やおはなしの部屋など、健康相談・情操教育の活動を推進しており、特に子育て支援に、地域の人材として青年・保健婦等の方々にボランティアで参加してもらって、地域全体で子育て作りの推進をされているという実践発表でした。

そして、それらを全て可能にしているのは、施設長が元保育士であるという専門性が生かされている成果であり、全国的にも模範的な活動が成されていると感

じました。これについては、奈良市が生涯学習財団を受け皿に、いち早く指定管理者制度を導入して一括管理を行ったことで、社会教育に精通した地域に必要とされる人材の育成と派遣が可能となり、この結果に繋がったと思います。

また、分科会の最後のフロア討論では、各公民館から若い方の参加が非常に少ないという悩みの声が多数ありましたが、奈良市においては、奈良ひとまち大学を実践して、若者の関心が非常に高まっているということですので、これは、全国に誇れる奈良の活動であるので、これからも期待しております。

・第60回奈良県公民館大会及び第24回奈良県社会教育研究大会 9月25日(火)

委員 基調講演と分科会があり、まず、基調講演は「地域と共にある社会教育活動の在り方について」ということで、県立高校の校長として学校教育の現場と、県の教育庁の次長として教育行政の両方に長期間関わった講師による講演でした。

内容としては、社会教育・公民館は崩壊状態であるという趣旨でした。それは、社会教育・公民館の職員の減少、関連予算の減少、社会教育の役割の不鮮明化によるものであるということでした。また、東日本大震災以降、地域のつながり・きずなへの意識が高まっているが、これに寄与できる力が、今の公民館にはなくなっているということでした。

そして、この苦境から脱出するためには大胆な発想転換が必要であり、最優先で取り組む課題は、「子ども・学校・地域」に焦点を当てた取組である。現在の教育状況を見ると、学校だけでは子どもを育てきれない現状がある。そこに、学校と保護者と地域住民の相互理解を図るために公民館の持つ力を活かし、アピールすることが有効で、その中で公民館の存在を再認識してもらい、崩壊状態にあるものを立て直す必要があるという提言でした。

分科会においては、公民館と地域放課後子ども教室というテーマで、川西町の公民館事業の報告でした。

川西町では平成14年度の完全学校週5日制実施に合わせ、子ども合唱教室・子どもお琴教室・子ども和太鼓教室を町の単独事業として始めており、公民館事業から出発したものが、クラブとして自主活動に発展しており、現在は4歳児から中学生までが参加しているということでした。

また、川西町全小学生431人のうち15%が公民館や併設の文化会館を利用しており、さらに、イベントへの出演や介護施設へのボランティア活動等により地域との交流活動も行われているそうです。

近隣他市と同様に人口減少・高齢化が進み、年々利用者が減少している現状の中、10年にわたる取組で、公民館と子どもの関係がより近く、良くなってきており、公民館が子どもたちの意識の中にも、友だちや地域の人との交流の場として認識されるようになったという成果があり、今後が非常に期待できるところでした。

この報告に対して、助言者からは、この取り組みの良いところは子どもが公民館に親しんだことである。さらに、課題としては、子どもから親に繋げる工夫や学校の先生方とも協力すること、そして将来的にはそういった方を無償でできていただく指

導者に発展させたり、地域の人に関わりを増やすことなどが考えられるということでした。

講師の方が基調講演で、様々な要因によって社会教育・公民館は崩壊状態であると述べられましたが、私自身は、そういったことで打撃を受けるほど公民館は弱いのだろうかという疑問に思うところもありましたが、公民館が本来の機能を果たしつつ、時代の変化や社会のニーズに合わせた活動を模索しなければならないという基本的かつ重要なことを確認させていただきました。

続いて参加した分科会では、町にある人・資源を利用し、子どもたちが継続して活動に参加できるように意図した事業により、公民館の利用率が低い子どもや若者と公民館との距離を縮めたという活動報告を聞き、奈良市の公民館事業が、川西町のように創意工夫と地道な活動で地域社会を支える役割を果たしているのか、さらに長期的展望に立った事業を展開しているのかという観点からみてゆくことの必要性を再確認しました。

最後に、本日の事業報告において、将来を見据えた事業ということにも取り組んでいるということ、現代的課題に重点的に取り組んでいるということ伺いましたので、奈良市の取組も良い方向を向いていると感じました。以上です。

#### ○平成25年度公民館大会について【案件4】

事務局から、第35回全国公民館研究集会と、第61回近畿公民館大会兼第61回奈良県公民館大会について詳細を説明し、全国公民館研究集会については宮辺委員が参加することを決定。近畿兼奈良県公民館大会は希望者が不在のため、会議の欠席者にも通知した後、事務局と会長で出席者を調整することで決定。

#### ○奈良市公民館運営審議会運営要領の改正について【案件5】

事務局より、本会議の担当課が地域教育課から生涯学習課に変更になったことと、会議録をホームページ上で公開することについての説明を行い、要領の改正を議決。

#### ○その他【案件6】

委員 お手元に青と赤の紙を配らせていただいています。青い方が公民館の自主グループ活動連絡協議会の会報で、年に3回ほど出しております。自主グループの活動が減っているという報告もありましたが、私どものところでは、自主グループで編集と印刷をしたものを地域に配布しております。また赤い方は、朱雀のふれあい会館の自主グループ活動連絡協議会の会報で1年に1回出しています。このように、できるだけ市の財政状況を圧迫しないような文化活動を推進していますので、みなさんに報告させていただきます。

次に、一年に一回だけの会議というのは、少し寂しいと感じます。予算の関係もあると思いますので、後の2回目や3回目についてはボランティアでも構いません。公民館の運営をいかに活性化させるのかを議論するためには、最低でも年に3回は開催していただきたいと思います。

例えば、私の地区では年に2回、800名ほど参加される山野草展というものを行っております。この事業を、毎年行っております公民館祭りのような主催事業に加えていただきたいと思います。しかし、こういった事業の取り扱いについて、公民館ごとに差異があるように感じます。このようなことについても、この運営審議会の皆さんと考えていけたらと思っておりますので、やはり年に3回程度は開催していただきたいと思います。

それから、公民館施設の駐車場の手狭さからトラブルが発生しているという話を聞いております。現状の施設の利用も大切ですが、より有効的な活用を図るということも、これから検討していただきたいと思います。

議長 私も、公民館運営審議会の複数回の開催をお願いしたいと思っております。それから、各大会の報告についても、できるだけ早く伺う機会ができればと思います。複数回の開催が即座に決定できないのであれば、少なくとも、もう少し早い時期に、各委員に公民館要覧と一緒に資料を郵送等し、それぞれの活動の中に生かしていただけるようにして欲しいと思います。

他に、ご意見ご要望等ございませんでしょうか。ないようでございますので、これもちまして、平成25年度第1回奈良市公民館運営審議会を終わらせていただきます。委員の皆様本当にありがとうございました。

#### 資 料

平成24年度公民館事業実施状況及び利用状況について  
平成25年度公民館事業計画について  
平成24年度公民館大会についての報告  
平成25年度公民館大会について  
奈良市公民館運営審議会運営要領及び新旧対照表